

〔参考文献〕 社団法人 海外林業コンサルタンツ協会 (2003) 途上地域混牧林経営推進確立調査事業報告書. Balai Pengeloraan Daerah Aliran Sungai Benain Noelmina (2002) Study and Promote Silvopastoral Management System in Semi Arid area Province of East Nusa Tenggara Kathryn. A. Monk *et al.* (1997) The Ecology of Nusa Tenggara and Maluku. I. Komang Surata (1993) Amaras system : Model Agroforestry di Lahan Savana Pulau Timor, SAVANA No. 8, 15-24.

## 図書紹介.....

◎熱帯林の造成と維持管理—国際協力の現場体験から— (岡部廣二, 日本林業調査会, 284pp, 2003. 8 2,500 円)

本書は国際協力の現場体験からという副題が示すように, 著者の長い, 広範な国際協力の現場経験が語らせた, 重量感あふれる熱帯林管理の方法論及び技術書である。本書は 1. 熱帯林のあらまし, 2. 熱帯林の現状と減少・劣化のプロセス, 3. 熱帯林の利用, 4. 熱帯における森林造成, 5. 熱帯における住民参加と社会林業, 6. 熱帯におけるアグロフォレストリーの 6 章で構成されている。第 1 章の熱帯林のあらましでは, 一部に学名のミスプリントはあるものの, 全世界の熱帯林の特徴的な樹木が主な地域毎に網羅されており, きわめて充実した内容となっている。また, おそらく著者の熱帯林管理に対する主張の中心として位置づけられると考えられるが, 第 5 章と第 6 章には社会林業とアグロフォレストリーについて多くのスペースを割いている。しかもこの記載には著者が永年現場で苦勞して獲得したなまなましい考え方や技術が至る所にちりばめられ, 教科書的な記載の多い他の書物に比べて大変な重量感を味わえる。

全体を通しての印象であるが, 今までのこの種の書物が技術論に偏るかあるいは旅行誌的な内容であるのに対して, 森林に対する国の歴史やそれに伴う法制度の推移などがベースとなってどのように技術が展開されてきたかを一部の国, 地域を取り上げ, ケーススタディー的に論述しているので, 大変理解しやすい。しかも地域の住民サイドに立った論旨の展開となっており, 近年特にクローズアップされてきている「森林破壊の原因である地域住民の協力なくして森林は管理できない」という考え方に沿っている。たとえば京都メカニズムを利用した森林造成などが世界的に活発化する兆しがあるが, このような森林造成や NGOs が行う住民林業にとって本書は大変多くの示唆を与えるものとなることは必定で, 是非参考にしていただきたい。 (大角泰夫)